

北海道林業労働力確保促進基本計画検討懇談会（第1回）議事概要

1 日時及び場所

令和3年（2021年）6月17日（木）10:00～12:00
オンライン（Zoom）※道側： 会議室

2 構成員及び出席者名簿

別紙のとおり

3 議事

(1) 林業労働力の確保の促進に関する基本計画の策定について

基本計画の策定の趣旨、基本計画の内容、スケジュールなどについて意見交換。

(2) 森林・林業及び林業雇用の動向について

北海道の森林資源の概要、林業の動向、林業労働の動向について意見交換。

(構成員の主な発言)

- ・労働力確保の競争が多く、労働条件が整っていないと来てもらえないため、社会保険は当然として、月給制、有給等の整備は必須。
- ・給与や賞与等、他より待遇を良くすることで、人材の確保を図っている。
- ・緑の雇用は、直営班の人数が少なかったり現場が立て込んだりする場合、なかなか定期的に研修へ出しづらい現状にある。
- ・地域との意見交換でも、新規で参入者を確保するためには、魅力的な地域づくりや、造林作業の軽労化・省力化が必要との声も聞いている。
- ・本人は林業をやりたいと移住しても、配偶者が地元で馴染めない、教育、医療の環境面から離職してしまうケースが多い。
- ・地方で人を定着させるためには手当等含めての住宅確保が定住に必要と聞いている。

(3) 森林整備担い手対策基金事業の実績・成果について

森林整備担い手対策基金事業の実績と成果について意見交換。

(構成員の主な発言)

- ・離職率については、経年で追っていくことが重要と考えるので、把握することを検討願いたい。

(4) 北海道における林業労働対策の検討方向

林業労働における課題、素案に盛り込むべき内容について意見交換。

(構成員の主な発言)

- ・育成確保について、そもそも北海道の林業で働く人はどれだけ必要なのかについて検討が必要。
- ・労働環境を整備して、女性が子育てをしながら、あるいは、子育て後に安心して働けるような対策が必要。
- ・作業面、安全面ともに造林作業の機械化は不可欠。
- ・労災対策には機械化によって労災が起こりえない状態にすることが重要。
- ・多能工化に関して、言葉では簡単だが、実際にどのような方策があるのか等、掘り下げが必要。
- ・特定の時期だけなど、短期的に林業で仕事をしてもらえようという仕組みを作るという考え方もある。
- ・特定地域づくり共同組合や異業種連携については、地域内でのコーディネートや割り振り、仕組み作りが必要。
- ・森林組合の事業連携制度の記載について、制度の活用に限定するのではなく、組合間での作業班の融通など、幅広な記載とした方が良いのではないか。
- ・SNSを活用した情報発信に当たっては、SNSを上手く活用している市町村との連携が効果的